

ボランティアの心

音楽で楽しい笑顔の交流

千原美哉子（福祉9期：北区会）

幼い頃、お婆ちゃんが重たそうに風呂敷包みを抱えていたので一緒に持ってあげました。これが私のボランティアの始まりです。

そして、KSCとの出会いがあり、人様に少しでも喜んでいただき、また自分も楽しく、老後の生きがいを見つけようと…。そこで、大正琴とウクレレに出会いました。親孝行のつもりで、実家の母に懐メロを弾いてあげると、「懐かしいなあ」といいながら、歌ってくれ、当時の話もしてくれました。〈音楽の力はすごい！〉 母親が、若返ったように見えました。

在学中にクラブで施設訪問をして、一番に感じたことは、スタッフの方の献身的な態度でした。

〈優しい接し方やなあ〉。まさに「こころ」。奉仕の精神なくしては、出来ないことだと思いました。卒業と同時に、「ト音記号」（サークル）をたち上げ、音楽療法士のもとへ通い、「笑顔で話を進めていく」「音楽を心から楽しんでもらう」「あちらと一体になる」「人様の前で、何かを進めることの難しさ」といったようなことを学びました。

施設では、楽しく、心から笑えるお話をと、心がけています。最初は余り反応がなくても、一生懸命やっているとお話を通じ合い、笑顔が返ってきます。皆さんには色々な楽器に手を触れてもらい、一緒に歌い演奏をします。こちら、演奏に夢中になると、つい笑顔を忘れてしまいますが、これは毎回の課題です。



真野福祉センター（長田区）で演奏するト音記号の皆さん

子供たちの相手をするとき、子供たちがリードしてくれます。気を使うこともなく、こちらもパワーを全開し、楽しい時間が過ぎてゆきます。無邪気な姿に感動し、いつのまにか自分も子供の心にかかっています。ボランティアをやっていて、一番うれしいことは「楽しかった。また来てね」の一言です。

私たち「ト音記号」は、このほど神戸市社会福祉協議会から表彰状をいただきました。これを心の励みとして、今後もボランティア活動に打ち込みたいと思っています。

暑さ忘れて虫取りに熱中

トンボをとった、クワガタがいたー8月3・4の両日、夏休み昆虫採集教室がビオトープ周辺で行われ、親子づれ200人が参加しました。炎天下、親も



ビオトープでトンボやバッタを追いかける子どもたち 北村洋撮影

子ども暑さを忘れてバッタやセミを追いかけて、次々と捕虫カゴに。玉虫、カブトムシや珍しいカミキリムシをゲットした子もいて「やったあ」と大はしゃぎでした。この日の案内役は里山和楽会と六甲の自然

を守る会のメンバー。神戸いきもの会議の今給黎靖夫先生が、夏の昆虫の特徴や標本の作り方をアドバイス。子供たちはお気に入りの昆虫を標本にして発表、拍手を浴びていました。

野鳥研修会に40人が参加

野鳥と自然観察の会研修会が8月22日、「ひよどり」で開かれ、会員40人が参加しました。講師は、足輪装着をお願いしている山根みどり先生。第1部は、野鳥初心者を対象にした入門編で、夏鳥や冬鳥などの「渡り」について、第2部は、タンチョウの保護活動についての学習をしました。（野鳥と自然観察の会代表：茅中英一）



学習風景＝川上操六（生11）撮影